

〈研究資料〉

高等学校保健の「結婚生活と健康」に関する授業づくりと実践

— 協同的なグループ学習活動の導入 —

後藤晃伸* 家田重晴**

Planning and Practicing Lessons on “Marriage and Health” of High School Health

— Introducing Cooperative, Group-Based Learning Activities —

Akinobu GOTO *, Shigeharu IEDA **

Abstract

This study introduced a summary of a small unit on “marriage and health” taught by the first author, and described the learning situations of the observed students and the students’ reflections after the unit.

The subjects were 116 second-year students (53 male and 63 female) in Aichi prefectural N senior high school.

The first author designed the instruction plan for the unit on “marriage and health” over five classes and taught the classes.

The unit consisted mainly of cooperative, group-based learning activities. During the discussion, the problems were clarified using a worksheet. Following this, the class was divided into six groups containing five to seven students each. There were four writing activities for each problem: individual thought, information shared in groups, information shared in class, and supplementary explanation from the teacher. Moreover, at the beginning of the next class, the students reviewed the previous lesson as part of an activity called “remembrance practice” to promote knowledge fixation and lead the students to a new learning activity, which requires utilization of previous knowledge. This activity is centered on group learning.

In the students’ reflection after the unit, they reported: “I learned to think flexibly by listening to others,” “I became less hesitant to express my opinion,” and “It was easier for me to remember things because of the remembrance practice activity.”

I はじめに

平成 25 年度より年次進行で全面实施された
高等学校学習指導要領保健体育科の改訂では、

生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管
理と環境づくりが重要であることや保健・医療
制度及び地域の保健・医療機関などの適切な活
用が重要であることが明確にされ、内容が改善

*愛知県立一宮高等学校・中京大学大学院体育学研究科、**中京大学スポーツ科学部

された。そして、「結婚生活と健康」においては「結婚生活を健康に過ごすためには、自他の健康への責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子への健康診査の利用などの保健・医療サービスの活用が必要なこと」の内容が加わった¹⁾。

その改訂を受けて、第1著者がこの小單元についての指導計画を作成し、それを基にした授業実践を試みた。

ところで、高等学校学習指導要領においては主体的に学習に取り組む態度の育成が重視されているが、生徒の主体的な学習を促すには、授業計画において生徒同士が相互に学びやすい環境をつくることが重要であろう²⁾。また、主体的な学習は、思考力・判断力を育成し知識を活用する学習にもつながっていくと考えられる³⁾。

近年、そのような協同的な学習を取り入れた授業づくりの試み⁴⁾⁻⁸⁾が、かなり行われるようになってきているので、本研究の指導計画においても、生徒の主体的な学習を促すような協同的な学習の工夫をすることとした。

本研究では、第1著者の実践した「結婚生活と健康」の小単元の授業について、その概要や授業の工夫について紹介し、さらに観察した生徒の学習の様子や授業後の生徒の感想についても、授業実践者の立場からの解釈による評価を行った。

なお、本研究の実施および公表に関しては、当該校の校長の了承を得た。

II 実践授業の方法

1. 対象者・期間・実践者

対象者は、愛知県立N高等学校の2年1組38人(男子13人、女子25人)、2年3組37人(男子14人、女子23人)、及び2年5組41人(男子26人、女子15人)の合計116人(男子53人、女子63人)。実施期間は、2012年6月～7月であった。そして実践者は、同高等学校の保健体育科教諭(男性、37歳)であった。

2. 指導計画の作成

学習指導要領に明記されている「結婚生活と健康」の指導内容を整理すると、「受精、妊娠、出産に伴う健康課題」「家族計画の意義」「人工妊娠中絶の心身への影響」「自他の健康への責任感」「家族や周りの人からの支援」「保健・医療サービスの活用」の6つの項目に分けられた。本実践では、これらの項目に関して後述のような5単位時間分の指導計画を作成した。その際、小単元のねらいを踏まえたうえで生徒の状況を考慮し、指導項目の重みづけを変えるようにした。また、「男女それぞれの生殖にかかわる機能については、必要に応じ扱う程度とする¹⁾」ということから、今回の指導計画の内容からは割愛し、生徒の学びの様子から必要があると判断した場合に指導内容を見直すこととした。

3. 指導方法について

グループ学習を中心に協同的な学習活動を主体とした授業展開を行った。授業場面を、一斉指導による知識伝達の場面と知識を活用するグループ学習によるディスカッションの場面とに分け、授業場面割合を「3:7」としディスカッション形式の授業展開を多く設定した。その際、一斉指導ではディスカッションに必要な基本的な知識を身に付けさせることとし、教えずきないように留意した。また、教科書は生徒の学習活動の際に活用できるため、教科書での説明は最小限にとどめた。

ディスカッションの場面では、課題が明確になっていないと学習がうまく進まないため、学習カードによる課題の明確化やグループ毎へのアドバイス、発問の質やタイミングにも留意した。また、「家族や周りの人からの支援」という指導項目では、男女の立場の違いをふまえてお互いを尊重する態度を育むことも目的としていたので、男女別グループで話し合うクラスと男女混合グループで話し合うクラスを設定し、話し合いの内容や意見交流の行いやすさを検討した。

4. 協同的な学習の進め方

グループは5～7人の6班グループで構成する。一つの課題に対し、個人作業の時間、グループでの情報共有の時間、クラスでの情報共有の時間、指導者からの補足説明といった流れで学習を進める。

個人作業の時間は、学習カードの指示のもとに個人の意見について発表内容をまとめる時間とする。グループでの発表では、指導者に指名された生徒から順番に意見を発表する。なお、いつも同じ生徒にならないよう、時限によって指名する生徒を変えるなどして公平性に配慮する。次に、クラスでの情報共有ではグループ内で出た意見をグループ毎に一つずつ発表し、2～3周程度順番に発表していく。最後に指導者から補足説明や良い意見に対して評価するなどをしてまとめとした。補足説明の内容については、生徒達が経験していない学習内容を身近に感じさせるため、事前に情報収集した経験者のコメントを生徒に伝え、興味関心や思考力・判断力を高める材料とした。また、グループやクラスでの発表を行いやすくするために個人の意見をまとめる時間として個人作業の時間を7分程度設定した。

学習カードへの記入の際には個人や仲間の意

見を色分けさせ、学習過程を表出させる工夫をし、生徒の学びの姿を評価するための手段として活用した（資料1）。

5. 知識の習得にかかわる学習活動の工夫（学習の振り返り）

授業の導入部分で、知識の定着を促し、本時の内容に関する知識を活用する学習活動へと展開するために「思い出し練習」と称した振り返りの学習活動の時間を設けた。グループ学習を中心とした活動で、前回の学習内容について情報を共有しながら思い出させることを目的としている。5分程度の時間で情報共有させた後、グループの代表生徒に発表をさせ、指導者が補足説明しながら本時の授業の導入へと展開していく。なお、発表者が常に同じ生徒にならないように留意して指名する（例：グループ内を誕生日順で並べたときに2番目に早い生徒）。発表者以外のグループの生徒には、発表が滞らないようにサポートをするなどして協力して活動させる。

6. 各時間の学習内容・活動及び学習カード

1) 1時間目（健康な結婚生活についての導入、家族計画の意義）

《妊娠、出産にかかわる健康課題について》

母親は、産前と産後のどちらが辛いと思う？

【率直な意見】	【原因を考えた結果】	【話し合った結果】	【経験談を聞いて】
産後	産後	産後	産後

・産前の辛さの原因を探ろう。

- 重い
- 食事や運動に制限がある
- 不安がある
- つわり（個人差あり）
- 自分の行動が赤ちゃんに影響を与えるから精神的に辛い

・産後の辛さの原因を探ろう。

- 子育てが大変
- いばらや夜泣き
- 自分の時間が減る
- 母乳（2時間おき）
- 夜泣き
- 寝ぐずり寝ない
- 家事の両立が大変

・産後の辛い原因を探ろう。

- ビール、酒の制限、たばこの制限
- 歩くのが大変
- 寝かえりかたがわからない
- 赤ちゃんの抱きかたがわからない
- お腹が痛く、母乳がつかない
- 食べ物の世話が大変
- 食事はあっても食べ過ぎではない
- 体重が増える
- お金がかかる
- 妊娠線
- 泣いて理由がわからない
- 相談できる相手がいらない
- 外に出れない（1ヶ月2ヶ月）

・仕事をしているから大変

・出産後の身体が弱る（目が見えない、耳が聞こえない、最悪死ぬことも）

個人記入

体験談を記入

グループおよびクラスでの情報共有

資料1 個人や仲間の意見を色分けさせ、学習過程を表出させる工夫をした学習カード

学習活動：①本時の目標を理解する。②結婚について自分の考えをまとめる。③それぞれの結婚観について話し合う。④人生設計を考える。⑤家族計画の意義について理解する。⑥本時の内容をまとめる。

進め方：健康な結婚生活について、法的に可能な結婚年齢を説明しながら身近な課題として認識させ、結婚についての印象を学習カード(図1)に記入させる。その際、結婚することを前提として考えるのではなく、それぞれの結婚観についての理想や願望を記入させる。次


に、結婚する時の条件について理由を含めて学習カードに記入させ、グループで情報交換を行う。最後に、子育てから逆算しながら家族計画を含む人生設計を立てさせることで、結婚がより身近な課題として考えられることに気づかせ、興味関心を持たせる。

2) 2時間目(人工妊娠中絶の心身への影響、受精に伴う健康課題)

学習活動：①「思い出し練習」を行う。②母体保護法から人工妊娠中絶を考える。③人工妊


学習カード ア(イ) 結婚生活と健康 ②

2年 組 番 氏名


《人工妊娠中絶の心身への影響について》 

精神的にどのようなことがあると思いますか？

身体的にどのようなことがあると思いますか？

望まない妊娠への対策(方法)について確認しておきましょう。 

- ・ _____ → 特徴()
- ・ _____ → 特徴()
- ・ _____ → 特徴()
- ・ _____ → 特徴()
- ・ _____ → 特徴()

《受精期の健康課題について》 

この時期に気を付けることとしては、どんなことが挙げられるかな？


【MEMO】今日の授業で学んだことをまとめてみよう。 

図1 1時間目「健康な結婚生活についての導入、家族計画の意義」の学習カード

娠中絶が可能な妊娠週数から人工妊娠中絶について考える。④人工妊娠中絶の心身への影響について書き出す。⑤グループ及びクラスで情報を共有し、ディスカッションをする。⑥避妊法について調べ、それぞれの特徴について理解する。また、生殖機能について理解が不十分な場合は説明を受ける。⑦受精に伴う健康課題について考えをまとめる。⑧本時の内容をまとめる。

進め方：母体保護法で定められている人工妊娠中絶が可能な妊娠週数や条件について、なぜ

認められているかを考えさせ、人工妊娠中絶を行った場合の精神的な影響と身体的な影響について学習カード（図2）に記入させる。記入させたらグループで情報を共有し自分にはない意見を加筆させる。共有させた情報を発表させ、クラスの意見として集約しながら指導者が補足説明を行う。次に、避妊法の特徴について、教科書を活用させながら既得の知識と合わせて学習カードに記入させ、家族計画の意義についても考えさせる。最後に受精に伴う健康課題について、本時の学習内容を踏まえて考えさせながら

学習カード ア(イ) 結婚生活と健康 ③

2年 組 番 氏名

《妊娠、出産にかかわる健康課題について》

母親は、産前と産後のどちらが辛いと思う？

【率直な意見】 【原因を考えた結果】 【話し合った結果】 【経験談を聞いて】

□ ⇒ □ ⇒ □ ⇒ □

・産前の辛さの原因を探ろう。

・産後の辛さの原因を探ろう。

《自他の健康への責任感について》

・この時期に気を付けることとしては、どんなことが挙げられるかな？

【check】 妊娠20週～分娩後12週までに高血圧になったり、タンパク尿が出たりした場合の症状を何というか？
予防策としては、体重管理を行うこと、塩分を控えるにすることがよいとされている。

【check】 出産後～1週間ぐらいの頃、ホルモンバランスの変化や出産や子育てへの不安から、思いつめたりふさぎ込んだりしてしまう状態を何という？

【MEMO】 今日の授業で学んだことをまとめてみよう。

図2 2時間目「人工妊娠中絶の心身への影響、受精に伴う健康課題」の学習カード

学習カードに記入させる。

3) 3 時間目 (妊娠や出産に伴う健康課題、自他の健康への責任)

学習活動：①「思い出し練習」を行う。②出産について、産前と産後ではどちらが辛いかな想像しながら原因を探る。③グループ及びクラスで情報を共有し、ディスカッションをする。④経験談を聞き、再度ディスカッションをする。⑤母子の健康への責任感について話し合う。⑥出産に係わる用語の名称について理解する。⑦

本時の内容をまとめる。

進め方：出産について産前と産後ではどちらが辛いかな想像で答えさせる。答えさせるタイミングは、導入段階、個人で原因を考えた後、グループやクラスで話し合った後、指導者からの補足説明及び体験談を聞いた後の4回とした。授業の進め方としては、まず産前や産後のつらさの原因を自分なりの想像で学習カード(図3)に記入させる。次にグループで情報交換をさせ、自分の意見になかった意見を加筆させる。さらに、グループで出た意見の中で、他のグ

学習カード ア(イ) 結婚生活と健康 ④	
2年 組 番 氏名	
《家族や周りの人からの支援について》	
夫として、具体的にどんなサポートをしてあげられる(欲しい)だろうか?	
<p><女性からの視点></p> <div>産前</div> <div>産後</div>	<p><男性からの視点></p> <div>産前</div> <div>産後</div>
<p>・夫のことも配慮しながら、できる範囲での最高のサポートを見つけよう。</p>	
<p>・話し合った結果「自分ができるサポート」or「これだけはして欲しい」を一つあげるとしたら何?</p> <div></div>	
<p>おじいちゃん&おばあちゃんからの視点</p>	
<p>第三者からの視点</p>	
<p>【MEMO】今日の授業で学んだことをまとめてみよう。</p> <div></div>	

図3 3 時間目「妊娠や出産に伴う健康課題、自他の健康への責任」の学習カード

ループにはなさそうな意見をクラスで発表させ、情報を共有させる。最後に事前に得ていた経験者からの体験談を伝え知識を追加させ、妊娠、出産にかかわる健康課題について考えさせる。また、この健康課題をもとにこういった気遣いや配慮ができるかについても考えさせ、学習カードに記入させる。

4) 4 時間目（良好な人間関係や家族や周りの人からの支援）

学習活動：①「思い出し練習」を行う。②家

族や周りの人からの支援に関して、夫からのサポートの仕方について話し合う。③できる範囲で可能なサポートの仕方を考える。④家族や周りの人からの支援に関して、夫以外の家族からの視点について話し合う。⑤家族や周りの人からの支援に関して、家族以外の第3者からの視点について話し合う。⑥本時の内容をまとめる。

進め方：家族や周りの人からの支援について、夫、家族、第3者の3つの視点からどういったサポートができるかを考えさせる。まず

学習カード ア（イ）結婚生活と健康 ⑤ 2年 組 番 氏名
《保健・医療サービスの活用について》 社会環境及び保健行政からの視点
【check】 1942年から使われている母子保健の向上に大いに貢献しているモノを何というか？ちなみに、諸外国でも日本にならって導入するケースが増えている。
【check】 関係機関や団体が一体となって母子保健を推進する計画として2000年11月に策定された母子保健の方向性を示した国民運動を何と総称しているか？
《健康な結婚生活について》 今回の授業を通して、結婚生活に関して不安なことはないか書きだしてみよう。
逆に、夢や希望が持てたことに関して書きだしてみよう。
《心身の発達》 授業前（5時間分）と比べて、結婚に対する心境の変化があれば、書きだしてみよう。
【MEMO】 今日の授業で学んだことをまとめてみよう。

図4 4 時間目「良好な人間関係や家族や周りの人からの支援」の学習カード

夫のサポートの仕方について、女子生徒は女性の視点からどういったサポートをしてもらいたいか、男子生徒は男性の視点からどういったサポートをしたら良いかを、産前、産後で分けて学習カード（図4）に記入させる。記入させたらグループで情報を共有し、自分にはない意見を加筆させる。さらに、グループで出た意見の中で、他のグループにはなさそうな意見をクラスで発表させ、情報を共有させる。最後に事前に得ておいた経験者からの体験談を伝え学習カードに加筆させる。その後、精神的なサポートと身体的なサポートに分類するためにマーカーなどで色分けをさせる。次に、ここまでの知識をもとに実現可能なサポートの仕方を個人で見付けさせる。個人の意見をグループで集約し、仲間の意見も踏まえた上で女子生徒はこれだけはしてほしいサポートを、男子生徒は自分ができる最高のサポートを学習カードに記入させ、まとめさせる。夫以外の家族からの支援や家族以外の第3者からの支援については、個人で記入させた後、指導者から補足説明及び体験談の紹介を行う。

5) 5時間目（保健・医療サービスの活用、全体のまとめ）

学習活動：①「思い出し練習」を行う。②社会環境及び保健行政からの支援について話し合う。③我が国の保健・医療サービスの参考例を聞き、活用の仕方を学ぶ。④母子への健康診査の利用などの保健・医療サービスに係わる用語について理解する。⑤健康な結婚生活に関して全般を通して感じたことをまとめる。⑥上記の内容を振り返り、考え方や心境の変化について自分と向き合う。⑦本時の内容をまとめる。

進め方：社会環境及び保健行政からの視点で思いつく支援の仕方について学習カード（図5）に記入させる。記入させたらグループで情報を共有し、自分にはない意見を加筆させる。さらに、グループで出た意見の中で、他のグループにはなさそうな意見をクラスで発表させ、情報を共有させる。最後に我が国の保健・医療サービスの参考例を聞き、活用の仕方の説明をす

る。なお、母子への健康診査の利用などの保健・医療サービスに係わる用語についても説明をする。振り返りとして、学んだ内容や感じたことについてまとめさせる。また、まとめた内容についての考え方や心境の変化について自身と向き合わせ、学習カードに記入させる。指導者から、健康な結婚生活に対して振り返りを行い、将来に対して希望が持てる仕組みが構築されていることを理解させる。

Ⅲ 授業の様子と生徒の感想

1. 授業について

指導者が学習指導要領での指導内容を明確に意識し、教科書の記載内容を教えるだけでなく、ねらいに沿った授業を展開することを目標とした。そして、教科書を説明する授業から、教科書を活用した授業へと転換することを試みた。

授業中の話し合いにおいては、情報共有する場において自分の考えをまとめることに没頭する生徒をなくし、仲間の意見に耳を傾けられるようにするための工夫として、個人の意見をまとめる時間を7分程度設定した。その結果、自分の意見を準備することで発表に対する自信と余裕ができ、積極的に話し合いに参加する姿が見られるようになったと感じた。また、学習カードの記載内容も量、質共に良い方向に変化したように思われた。

次に、「家族や周りの人からの支援」という指導項目において、グループ学習における男女別グループと男女混合グループでの話し合いの内容の差について検討した。今回実施したクラスでは、出産や妊娠に伴うサポートの仕方について話し合っていたが、男女別グループに分けたクラスの一部の女子グループで、女性の大変さについての発言が過激になり感情が高ぶってしまうことがあった。これは、異性を尊重する態度を育てるといったねらいから外れており授業の修正が必要となるケースとなった。一方、男女混合では、お互いに遠慮しながら発言する場面が多くみられ、意見交換はさほど活発に行

われている様子はなかったが、お互いの立場を尊重する意見が多く、特に男子にとっては将来の参考になる話し合いが展開されていたように感じた。今回のディスカッションの結果は、おおむねどのクラスも身体的な面でのサポートも必要だが、精神的な面でのサポートがより大事になってくるだろうというものであった(資料2)。この指導項目に対する結論としては、サポートを受ける側の個人的な見解もあるため、必ずしもこれが正解という結論には至らないが、知識を活用して思考・判断するオープンエンドなディスカッションができたことで、将来につながる良い授業実践となったように思う。

2. 生徒の感想

今回の授業実践の小単元終了後、生徒に感想等の簡単なアンケートに答えてもらったが、「体験談が良かった。教科書では伝わらない感情が伝わってきた」「男女での意見交換は視点が違ってなるほどなぁと思った」「他の人の話を聞中で柔軟な考えを持てるようになった」「自分の意見を発表することにあまり抵抗がなくなった」「思い出し練習があるので、記憶に

残りやすかった」「5時間とは思えないほど濃密だった」「結婚に対して、不安の方が大きかったけど、希望が持てるようになった。将来が楽しみ」「お母さんに感謝の気持ちで一杯になった」などの感想があった。アンケートの回答に、授業計画を作成した意図を反映したものが、生徒の思考・判断した学びの姿が伺えた。

IV 最後に

学習指導要領の学習内容を自分自身で整理することは、学習課題を明確にするためにも必要不可欠であり、生徒の学びの姿に影響が出ると考えた。

なお、実践の課題としては、自分の意見を発表することに抵抗がある生徒(例えば場面緘黙の生徒など)への対応として、学習カードを見せ合うことで情報を共有させるなどの工夫をするとさらに良かったかもしれない。

次に、生徒の感想では学習内容を理解している表記も確認されたが、今回の分析は表面的な記述の整理に終わってしまった。今後は、生徒の感想についても言葉の出現頻度を調べたり、

《周りの人からの支援について》

夫として、具体的にどんなサポートをしてあげられる(欲しい)だろうか?

＜女性からの視点＞	＜男性からの視点＞
産前 お風呂と来、ほしい。 〇体調を気にしたい。 〇家事、身の回りのこと。 〇買い物。 〇仕事と頑張りたい。 〇出かけるときに 〇立ち仕事してほしい。 〇一着!	産前 〇食事、果物と一緒に。 〇子供のことに 〇荷物をもつ。 〇明るく、仲良く話して 〇家事をする。手伝う。 〇不安の解消 〇お風呂と来、ほしい。 〇お風呂と来、ほしい。
産後 〇自分とは自分でもほしい。 〇重労働 〇子供の面倒を見てほしい。 〇お風呂と来、ほしい。 〇早く帰宅してほしい。 〇お風呂と来、ほしい。 〇お風呂と来、ほしい。 〇お風呂と来、ほしい。	産後 〇お風呂と来、ほしい。 〇お風呂と来、ほしい。 〇お風呂と来、ほしい。 〇お風呂と来、ほしい。 〇お風呂と来、ほしい。 〇お風呂と来、ほしい。

夫のことも配慮しながら、できる範囲での最高のサポート方法を見つけよう。

出来るだけ一緒に話をして聞くこと。

知識

思考・判断

資料2 「周りの人からの支援」における学習カードの記入例

また授業前後に同じ質問紙調査をしたりするなど、もっと授業の影響が明らかになるようにしていきたい。

なお、この実践報告は主に、文部科学省が主催した平成 24 年度保健学習協議会で発表した内容をまとめたものである。

参考文献

- 1) 文部科学省：高等学校学習指導要領解説保健体育編体育編。p110、東山書房、京都、2009
- 2) 杉江修治：協同学習法。日本教育大学院大学監修。高橋 誠編著。教師のための「教育メソッド」入門。教育評論社、pp122-127、2008
- 3) 日本学校保健会保健学習推進委員会：これからの高等学校保健学習。日本学校保健会、東京、2009
- 4) 犬山市立犬山北小学校著、田中康史・杉江修司監修：学び合い育ち合う子どもの育成（協同教育実践資料 16）。一粒書房、半田、2012
- 5) 犬山市授業研究会著、杉江修司・水谷 茂監修：子どもの確かな学びづくりと教師の共同（協同教育実践資料 17）。一粒書房、半田、2012
- 6) 犬山市立犬山中学校著、鍵野英夫・杉江修司監修：「響き合い、高め合う学び」を創る研究的実践（協同教育実践資料 21）。一粒書房、半田、2014
- 7) 常本勇治、杉江修司：学び合い深め合う学級集団を目指すための学習の原理に共同を一貫する効果。中京大学教師教育論叢 4：57-72、2005
- 8) 水谷 茂：互いに支え合う中で、成長を実感できる授業づくり。中京大学教師教育論叢 4：73-112、2005